下関市若宮 1 号墳出土の古墳人骨

松下孝幸

【キーワード】：山口県、古墳時代人骨、箱式石棺、複数体埋葬

はじめに

下関市大字綾羅木字若宮に所在する若宮古墳群にある第 1 号墳と第 3 号墳の発掘調査が 1958(昭和 33) 年と 1959(昭和 34) 年におこなわれ、それぞれの内部主体から人骨が出土した。1983(昭和 58) 年から 1986(昭和 61) 年には史跡整備のための調査がおこなわれている。若宮古墳群は、弥生時代の貯蔵穴が大量に検出された遺跡として著名な綾羅木郷遺跡が存在する洪積台地の西端に位置している。第 1 号墳は前方後円墳で、その規模は全長約 43m、後円部の直径約 23m、高さ約 8m、前方部の幅約 13m で、3 段築成され、葺石をもち、埴輪も出土している。内部主体は 1 基の箱式石棺で、硬玉製勾玉と碧玉製管玉が各 1 点のほかに鉄剣、鉄刀、鉄斧が石棺内から出土している。築造時期を山口県史では古墳時代中期 (5 世紀) としているが、4 世紀後半とする見方もある (註)。第 3 号墳の墳形は不明であるが、内部主体は長方形の箱式石棺 1 基からなり、鉄刀と鉄製刀子が各 1 点ずつ出土している。

第 1 号墳から検出された人骨は、山口県史によれば「北側石に接して寄せられ、南寄りの長管骨のみ原位置を保っており、遺骸は北枕で、追葬されていた」という。

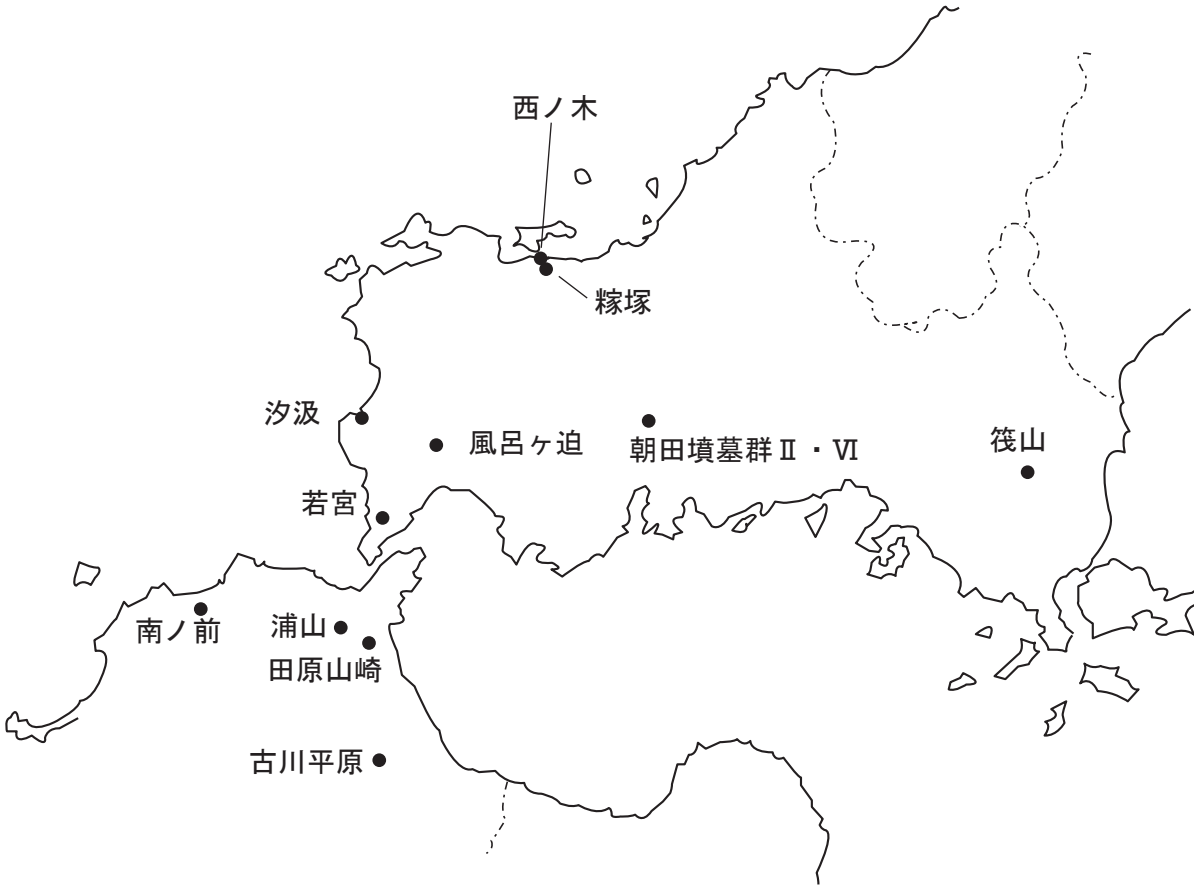
山口県から出土した古墳時代人骨の出土例としては、筆者が調査にかかわったものや所見を記載したものは山口市の朝田墳墓群第Ⅱ地区 (松下、1982、松下・他、1983)、朝田古墳群第Ⅵ地区 (松下、2016)、下関市の (旧豊浦町) 汐汲遺跡 (松下・他、1986)、(旧菊川町) 風呂ヶ迫横穴群 (松下、1996)、山陽小野田市の (旧山陽町) 妙徳寺山古墳 (松下・他、1991)、宇部市の古墳から出土した人骨 (松下、1984)、岩国市 (旧玖珂町) 筏山古墳 (松下、2003)、長門市の稼塚横穴墓 (松下、2004) と西ノ木古墳 (松下、2005) などがあるが、その他に、山陽小野田市 (旧小野田市) の仁保の上横穴墓 (佐伯・他、1990)、下松市の山根古墳 (洲上・他、1958)、平生町の神花山古墳 (鈴木・他、1951) がある。

3 号墳から出土した人骨は顔面の保存状態が悪く、顔の特徴は不明であるが、頭型や四肢骨の一部の特徴を明らかにすることができた (松下、2016)。1 号墳から出土した人骨は主に四肢骨で、保存状態は悪かったが、計測ができるものも存在する。古墳人骨の出土数の少ない地域だけに、下関市域の古墳人の形質を知る上では貴重である。計測と人類学的観察をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資　料

若宮第 1 号墳の石室から出土した人骨は、頭蓋片 4 点、右側上腕骨 2 点、右側尺骨 2 点、左側橈骨 1 点、右側大腿骨 1 点、右側脛骨 1 点、環椎 1 点、腰椎 4 点、仙骨 1 点、寛骨片 3 点、肋骨片 (多数)、その他四肢骨片 (多数) であるが、すべて成人骨である (表 2)。

右側上腕骨と右側尺骨がそれぞれ 2 本ずつ残存していたことから、上腕骨と尺骨は少なくとも 2



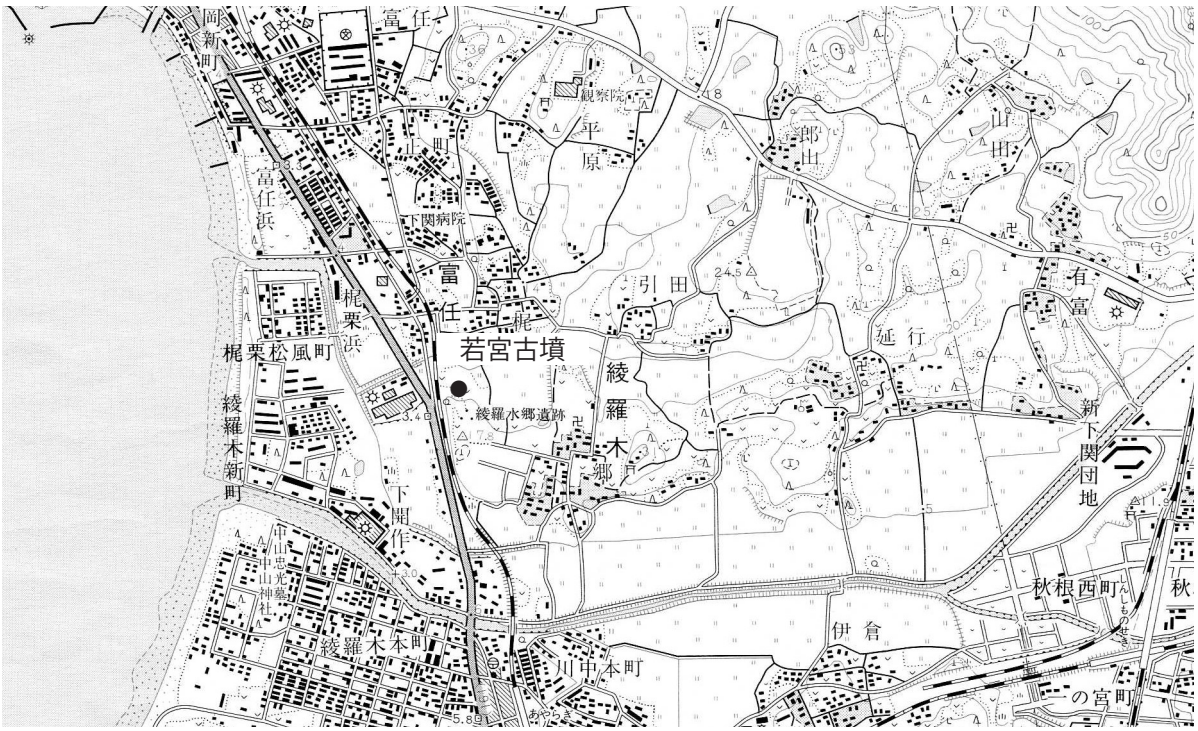


図１．遺跡の位置（1/25,000）
(Fig.1 Location of the Wakamiya tumulus, Yamaguchi city, Yamaguchi Prefecture)

体分である。また、大腿骨は女性大腿骨と推測されることから、残存していた人骨は 3 体分となり、被葬者は少なくとも男性 2 体、女性 1 体、合計 3 体は存在したものと思われる (表 1)。

後述している上腕骨 1 (HU1) と尺骨 1 (UL1) は色調や残存状態などから、おそらく同一個体と思われる。

表 1　資料数（Table 1. Number of materials)

成　人			幼小児	合　計
男性	女性	不明		
2	1	0	0	3

表 2　主な出土人骨一覧（Table 2. List of skeletons)

人骨番号	骨　種	性別	年齢	備　　考
ＨＵ１	上腕骨 (右)	男性	不明	ＵＬ１ (尺骨 1) と同一個体
ＨＵ２	上腕骨 (右)	男性	不明	
ＲＡ１	橈骨 (左)	不明	不明	
ＵＬ１	尺骨 (右)	男性	不明	
ＵＬ２	尺骨 (右)	不明	不明	
ＦＥ１	大腿骨 (右)	女性	不明	
ＴＢ１	脛骨 (右)	不明	不明	

これらの人骨は考古学的所見から、古墳時代中期 (5 世紀) もしくは古墳時代前期末 (4 世紀後半) に属する人骨と推測されている。計測方法は、Martin-Saller(1957) によった。なお、性判別については所見の項でそれぞれ骨ごとにその推定根拠を挙げた。年齢は推測できなかったが、すべて成人である。

所　見

１．頭蓋

頭蓋片 4 点のうち 1 点は矢状縫合を挟む頭頂骨であるが、骨壁はかなり薄い。矢状縫合の内板は完全に癒合しているが、外板はまだ開離している。性別は不明であるが、年齢は熟年と思われる。

２．上腕骨

右側が 2 本残存していた。

①ＨＵ１（上腕骨、右、男性）

遠位端と骨体後面を欠損していた。ほとんど計測はできないが、骨体の径は大きい。

計測値は、中央最大径が 23mm(右)、頭最大矢状径が 47mm(右) である。径が大きいので、男性上腕骨であろう。

②ＨＵ２（上腕骨、右、男性）

右側の骨体が残存していた。径は大きく、三角筋祖面の発達も良好である。

計測値は、中央最大径が22mm(右)、中央最小径は18mm(右)で、骨体断面示数は81.82(右)となり、骨体には扁平性は認められない。骨体最小周は64mm(右)、中央周は67mm(右)で、骨体は大きい。この上腕骨も径が大きいので、男性上腕骨と思われる。

３．橈骨

①ＲＡ１（橈骨、左、性別不明）

左側骨体が残存していた。径はそれほど小さいものではないが、性別は不明としておきたい。

４．尺骨

右側骨体が２本残存していた。

①ＵＬ１（尺骨、右、男性）

近位端を欠損していたが、保存状態は良好である。骨体中央部は細いが、関節部分は大きい。骨体の径が大きいので、男性尺骨と思われる。

②ＵＬ２（尺骨、右、性別不明）

骨体近位部が残っていたにすぎない。径はあまり大きくない。保存状態が悪いので、性別は不明である。

５．大腿骨

①ＦＥ１（大腿骨、右、女性）

右側骨体の近位部が残っていた。計測はできないが、骨体の径は小さい。骨体の径が小さいので、女性大腿骨と推定した。

６．脛骨

①ＴＢ１（脛骨、右、性別不明）

右側骨体の後面が残存していたにすぎない。性別は不明である。

７．体数

上腕骨と尺骨は右側がそれぞれ２本ずつ残存していたので、２体以上の人骨が残存していたことになる。しかも、上腕骨は２本とも男性の上腕骨と思われる。大腿骨は径が小さいことから、女性の可能性が強い。頭蓋壁はかなり薄いことから、この頭蓋も女性頭蓋かもしれないが、ここでは性別不明としておきたい。また、脛骨片からは性別を推測することができなかったので、脛骨片は性別不明としておきたい。従って、本古墳から出土した人骨は男性２体、女性１体の合計３体の可能性がある。しかし、高塚式古墳に埋葬された被葬者の場合、頭蓋のたくましさに比較して、男性であっても四肢骨がかなり弱々しい場合があることがわかってきたので、この大腿骨が本当に女性大腿骨かどうかは、定かではないが、大きさだけから推測するとすれば、女性大腿骨と推測せざるを得ない。一応、ここでは女性大腿骨としておきたい。

考　察

計測ができた上腕骨について、近接する若宮第３号墳や山口県の例との比較をおこなってみた。表３は山口県内の古墳人男性上腕骨の主な計測値である。まず、若宮１号墳HU2と若宮３号墳との比較をおこなってみた。中央周は前者が後者よりも大きく、骨体断面示数も前者が後者よりも大きい。

すなわち、骨体は前者が後者よりも太く、骨体の扁平性は後者の方が強い。前方後円墳 (第 1 号墳) の被葬者は上腕骨が大きく、三角筋の発達も良好であるが、小さな円墳 (第 3 号墳) の被葬者の上腕骨は細いにもかかわらず上肢筋の発達がよかったことがうかがえる。墳丘の規模と形状の差は被葬者間の形質的差とも連動しているようである。

次いで、山口県内の古墳人上腕骨と比較してみた。中央周は 65mm を境に、骨体が太いものと細いものとに大別することができる。65mm を超える古墳人は、朝田古墳人、若宮 1 号墳 HU2、大須賀古墳人で、若宮 1 号墳 HU2 は朝田 7-2、大須賀 3 号と同値 (67mm) で、大須賀 1 号 (75mm)、朝田 10-3(68mm) に次いで大きい。一方、65mm 以下の古墳人は、尾崎、汐汲、赤妻、若宮 3 号、懸山で、若宮 3 号の中央周は汐汲 9 号と同値 (63mm) で、尾崎 (60mm)、汐汲 7 号 (61mm)、赤妻 (62mm) に次いで小さい。

骨体断面示数は、70.00 以下の骨体が扁平なものと 70.00 以上の扁平性が弱いものとに大別できる。若宮 1 号墳 HU2 は尾崎、赤妻、大須賀 3 に次いで大きく、骨体の扁平性はみられないが、若宮 3 号は朝田 7-2、大須賀 1 に次いで小さく、骨体には強い扁平性が認められる。

若宮 1 号墳 HU2 と若宮 3 号の上腕骨にみられた大きさと形態の差は、被葬者の集団内での階層的地位などを推測する際の手がかりになるものと思われる。

要　約

綾羅木郷台地遺跡の西端に位置する若宮 1 号墳 (前方後円墳) から人骨が出土した。出土量は少なく、保存状態も悪かったが、古墳人骨の少ない地域だけに資料としては貴重である。人類学的計測と観察をおこない、以下の結果を得た。

1. 若宮 1 号墳（前方後円墳）の内部主体である箱式石棺から検出されたのは、頭蓋片 4 点、右側上腕骨 2 点、右側尺骨 2 点、左側橈骨 1 点、右側大腿骨 1 点、右側脛骨 1 点、環椎 1 点、腰椎 4 点、仙骨 1 点、寛骨片 3 点、肋骨片 (多数)、その他四肢骨片 (多数) であるが、すべて成人骨である。
2. 上腕骨と尺骨は右側がそれぞれ 2 本ずつ残存しており、上腕骨は 2 本とも男性骨と思われる。大腿骨は女性骨と推測されることから、被葬者は少なくとも男性骨 2 体、女性骨 1 体の合計 3 体と考えられる。
3. この人骨は古墳時代中期 (5 世紀) もしくは古墳時代前期末 (4 世紀後半) に属する人骨と推測されている。
4. 上腕骨 (HU2) の中央周は 67mm(右) で、骨体は大きく、骨体断面示数は 81.82(右) で、扁平性はみられないが、三角筋祖面の発達は良好である。
5. 若宮 1 号墳の被葬者と若宮 3 号墳の被葬者の上腕骨には、大きさと形態に差異が認められたが、この差は両古墳に埋葬された被葬者の社会的階層の違いを示唆しているようである。

註：下関市立考古博物館の松永博明氏の御教示による。

≪参考文献≫

1．九州大学医学部解剖学第二講座、1988：日本民族・文化の生成、２、九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成。六興出版、東京。

2．Martin-Saller，1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag，Stuttugart：429-597.

3．松下孝幸、1982：山口県朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨。朝田墳墓群Ⅴ (山口県埋蔵文化財調査報告 64)：179-206.

4．松下孝幸・他、1983：山口県山口市朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨－総括篇－。朝田墳墓群Ⅵ (山口県埋蔵文化財調査報告 69)：219-242.

5．松下孝幸、1984：宇部の古人骨。宇部地方史研究、第 12 号：1-23.

6．松下孝幸、1985：光市荒神山古墳出土の人骨。光地方史研究、第 11 号：60-66.

7．松下孝幸・他、1986：山口県豊浦町汐汲遺跡出土の古墳時代・中世人骨。汐汲遺跡 (豊浦町埋蔵文化財調査報告第７集)：75-102.

8．松下孝幸・他、1991：山口県妙徳寺山古墳出土の人骨。山口県文化財報告第 134 集：71-76.

9．松下孝幸、1996：山口県菊川町風呂ケ迫横穴墓群出土の古墳時代人骨。風呂ケ迫横穴墓群発掘調査報告 (菊川町埋蔵文化財調査報告第４集)：21-28.

10．松下孝幸、2001：山口県玖珂町臼田古墳出土の人骨。臼田古墳 (玖珂町埋蔵文化財調査報告第４集)：12.

11．松下孝幸、2003：山口県玖珂町筏山古墳出土の古墳人骨。山口考古第 23 号：13-26.

12．松下孝幸、2004：山口県長門市糠塚横穴墓出土の古墳人骨。山口考古第 24 号：19-30.

13．松下孝幸、2005：長門市西ノ木古墳出土の人骨。山口考古第 25 号：25-40.

14．松下孝幸、2010：古墳人の顔とからだ。山口県史　通史編　原始・古代：613-617.

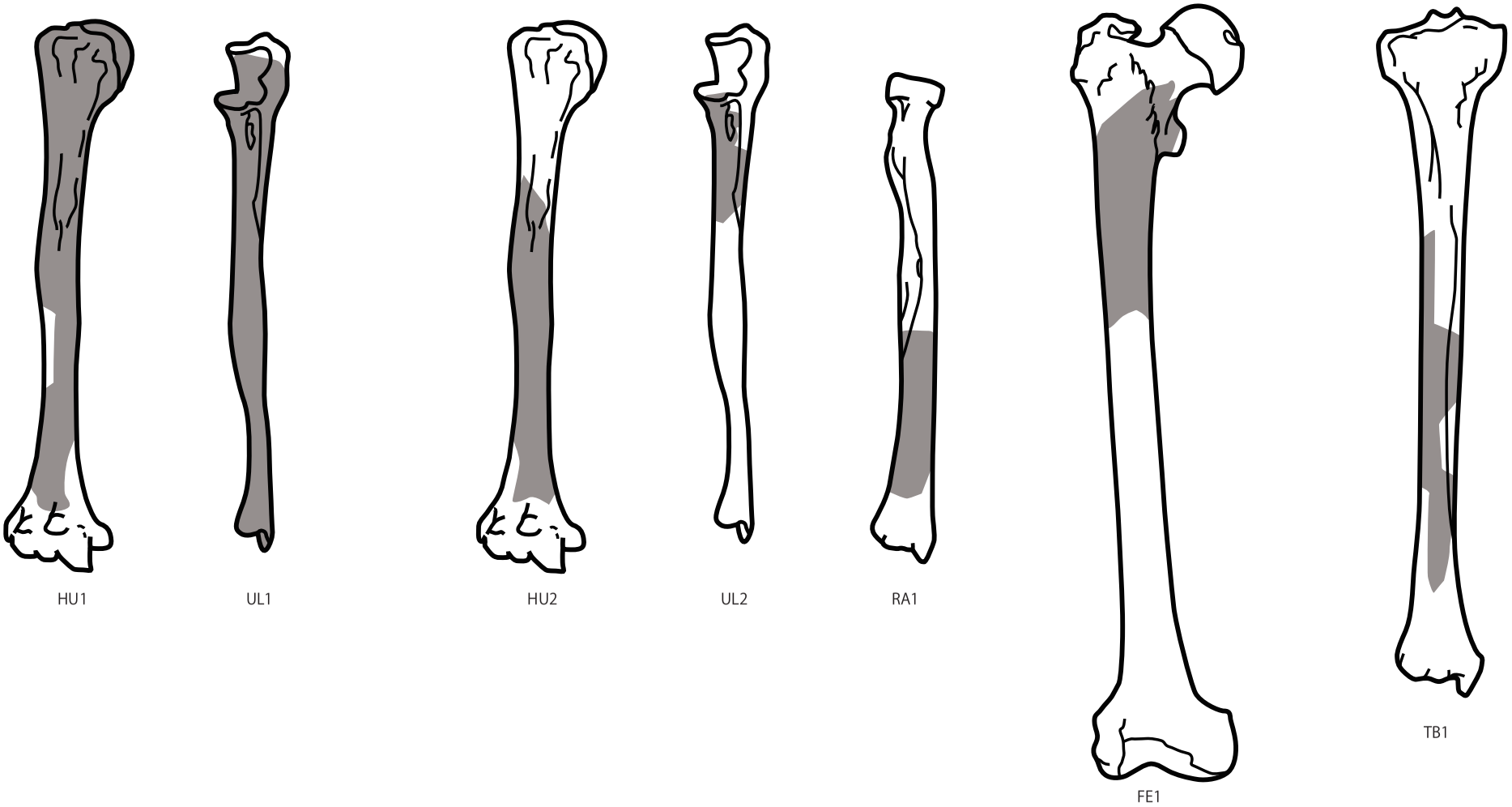
15．松下孝幸、2016：下関市若宮第３号墳出土の人骨。山口考古第 36 号：75-84.

16．松下真実、2016：山口市朝田墳墓群第Ⅵ地区出土の古墳人骨。山口考古第 36 号：85-94.

17．佐伯和信・他、1990：山口県小野田市仁保の上横穴墓出土の古墳時代人骨。小野田市埋蔵文化財調査報告第４集：15-23.

18．洲上直孝・他、1958：山口県下松市山根古墳出土の人骨に就いて。人類学研究、第５巻第１～４号：517-520.

19．鈴木誠・他、1951：山口県熊毛郡神花村古墳人骨。人類学雑誌、62 巻：31-33.



若宮１号墳人骨

図２　人骨の残存図 (アミかけ部分)
(Fig.2 Regions of Preservasion of the skeleton. Shaded areas are preserved.)

表３　上腕骨計測値（男性、右、㎜）（Table3. Comparison of measurements and indices of male right humeri）

		若宮1号墳 古墳人 山口県 下関市		若宮3号墳 古墳人 山口県 下関市 (松下)		汐　汲 古墳人 山口県 下関市 (松下)		朝田Ⅱ 古墳人 山口県 山口市 (松下・他)						大須賀 古墳人 山口県 宇部市 (松下)		尾　崎 古墳人 山口県 宇部市 (松下)		赤　妻 古墳人 山口県 山口市	縣　山 古墳人 山口県 光市	
		HU1	HU2			7号人骨	9号人骨	2-5		7-2	10-2		10-3	1号人骨	3号人骨			A		
5.	中央最大径	22	22	22	(左)	21	22	23	(左)	22	22	(左)	23	27	23	20	(左)	20	22	(左)
6.	中央最小径	−	18	15	(左)	16	16	16	(左)	17	17	(左)	18	18	19	17	(左)	17	16	(左)
7.	骨体最小周	−	64	60	(左)	57	59	−		62	62	(左)	63	(左) 67	61	−		57	59	(左)
7(a).	中央周	−	67	63	(左)	61	63	66	(左)	67	66	(左)	68	75	67	60	(左)	62	64	(左)
6/5	骨体断面示数	−	81.82	68.18	(左)	76.19	72.73	69.57	(左)	65.22	77.27	(左)	78.26	66.67	82.61	85.00	(左)	85.00	72.73	(左)

表４　上腕骨（㎜）（Humerus）

		若宮1号墳 HU-1 男性 右	若宮1号墳 HU-2 男性 右
1.	上腕骨最大長	−	−
2.	上腕骨全長	−	−
3.	上端幅	−	−
3(1).	横上径	−	−
4.	下端幅	−	−
5.	中央最大径	22	22
6.	中央最小径	−	18
7.	骨体最小周	−	64
7(a).	中央周	−	67
8.	頭周	−	−
9.	頭最大横径	−	−
10.	頭最大矢状径	47	−
11.	滑車幅	−	−
12.	小頭幅	−	−
12(a).	滑車幅および小頭幅	−	−
13.	滑車深	−	−
14.	肘頭窩幅	−	−
15.	肘頭窩深	−	−
6/5	骨体断面示数	−	81.82
7/1	長厚示数	−	−

表５　尺骨（㎜）（Ulna）

		若宮1号墳 UL-1 男性 右
1.	最大長	−
2.	機能長	222
2(1).	肘頭尺骨頭長	−
3.	最小周	39
6.	肘頭幅	−
6(1).	上幅	32
7.	肘頭深	−
8.	肘頭高	−
11.	尺骨矢状径	12
12.	尺骨横径	16
S	中央最小径	11
L	中央最大径	16
C	中央周	47
3/2	長厚示数	−
11/12	骨体断面示数	75.00
S/L	中央断面示数	68.75

上肢骨 (Bones of the upper limb)

下肢骨 (Bones of the lower limb)

若宮 1 号墳人骨
(The Skeletons from the Wakamiya tumulus No.1)

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第 12 号

発行年月日　2017 年 3 月
編集・発行　土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒 759-6121　山口県下関市豊北町神田上 891-8
TEL　083-788-1841
FAX　083-788-1843
印　　刷　株式会社アート
〒 751-0833　山口県下関市武久町 1 丁目 5-14
TEL　083-253-3451
FAX　083-253-3453